



きょうはく

郷博こどもクイズIIの答え



クイズの答えあわせをしてみよう！何問できたかな？

1

解説

弥生時代にはお米を作るようになります。食べ物は、時間がたつと腐ってなくなりますが、炭の状態（炭化米）のため残りました。大田区では当時の田んぼは見つかっていませんが、炭化米や土器についてお米のあとから、お米を食べていたことがわかります。

お米のあと



山王遺跡の土器のかけら

こたえ
1

2

解説

ガラス小玉は、海外から運ばれた貴重な資料です。日本列島では石（翡翠・碧玉・水晶など）を使って勾玉や管玉などのアクセサリーが作られ、ガラス小玉と組みあわせて使われました。権力のある首長のお墓から見つかるため、遠くから取り寄せたと考えられます。



管玉



勾玉

こたえ
1

3

解説

きゅうりの名前は、「馬込」で作られ、全体的に色が「白」く、茎の節ごとに実をつける（「節成」という）ことから、「馬込半白節成胡瓜」といい、明治37～38(1904～5)年頃から広まりました。普通のきゅうりに比べると柔らかく、漬物によく使われました。ただ、このきゅうりはあまり日持ちしなかったため、戦後は徐々に売られなくなりました。

こたえ
1

4

かいせつ
解説むぎ あ つく いな たけ
麦わらを編んで作られました。稲わらや竹よりも

こたえ

2

ツヤがあるので、キラキラとした
うつくしい仕上げりです。江戸時代頃
のおおもりあたりの人々は、色をつけた
あざやかな麦わらでおみやげ物を
つくって売ってしていました。麦わらで
はこもんようはにんぎょうあ
箱に文様を張ったり、人形を編む
ようすうきよええが
様子が浮世絵に描かれています。



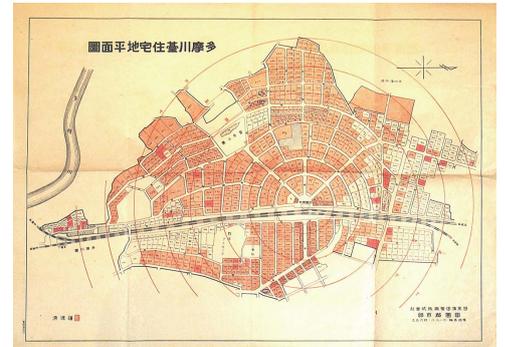
5

かいせつ
解説でんえんちようふ しぶさわえいいちたち けいかく
田園調布の住宅は渋沢栄一達の計画によって、

1～2階建ての住宅が建
ち並ぶ区域として売り出
されました。現在でも駅
を中心として扇状に広が
る美しい街並みが残され
ています。

こたえ

1



多摩川台住宅地平面図

6

かいせつ
解説

多摩川園は家族での利用を期待して、現在の多摩
川駅のそばに渋沢栄一達が開いた遊園地です。その
ため、子供が遊ぶ遊具だ
けでなく、大人も楽しめ
る劇場や温泉もありまし
た。今は田園調布せせら
ぎ公園になっています。

こたえ

2



多摩川園の様子（石原裕之氏撮影）

★解説文を読んで興味を持ったら、本やインターネットで
もっと調べてみよう！

おおた くりつきょうど はくぶつかん
大田区立郷土博物館